

Kins University Press, Baltimore, 1971.

【編著書】 McC. Brooks, Ch. and Levey, H.A.: Humorally-

Transported Integrators of Body Function and the Development of Endocrinology. 183—238 in McC. Brooks, Ch. and Craneheld, P.F. (eds.): The Historical Development of Physiological Thought. Hafner, New York, 1959.

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は印刷上の誤植を訂正するに留め、原稿の改変や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責了とみなす。

八 刷り上り一〇印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で二四枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし実費で作製する。別刷希望者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。

一〇 原稿の送り先

〒一一三 東京都文京区本郷二丁目一一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

## 編集後記

研究の成果を論文にまとめて発表するということは、その瞬間から他人の批判にさらされることである。しかしそのような批判がなければ、学問の進歩や発展はのぞむべくもない。それならば、事前の査読など必要はなからうに、とのご意見もあるかもしれないが、学会雑誌としての節度と権威を保つためには、一定のレベル以上の論文を掲載するための努力が必要であろう。欧米をはじめ、わが国の一流雑誌がこの制度を採用しているのも、そのような意図によることはいうまでもない。会員の方々もこの点を諒とされて、ふるって投稿されることを願うものである。

本号がお手許に到着するころには、来年の横浜での総会の演題募集要項も相前後して郵送されるはずである。毎年抄録号については編集の過程で、何かと事がおこることがおおい。すでに電算写植に移動したのも、編集事務の労をいく分でも軽減して、スムーズな発刊を旨ざしてのことであつたが、著者校正のない総会抄録については、今年からあらたな要項で演題募集をお願いすることになった。杉田暉道会長も編集委員会のご意図を支持してくだされ、要項をお決めたいたいたことをご報告申しあげ、そのご英断にあらためて感謝申しあげる次第である。

なお本年から医史学文献目録を横組にした。これもまた新しい取り組みの一環とご理解いただければ幸である。

(深瀬 泰且)